

# 被災地に寄り添う活動をすすめています

1月1日の能登半島地震発災以降、地元のコープいしかわが基本窓口となり、日本生協連・コープ北陸などと連携して全国の生協職員が支援活動にあたっています。パルコフも要請に応え、配送や福祉現場などに職員を派遣し現地で活動。これからも被災地に寄り添う活動をすすめていきます。

\*今回はホームページにて報告している「復興支援ニュース」3号分のダイジェストとしてお伝えします。ホームページでは、募金や支援活動などの情報を順次更新していますのでそちらもご覧ください。  
<https://www.palcoop.or.jp/shinsai/noto/info.html>



### パルコフとしてのこれまでの動き

1月5日	パルコフ店舗で募金箱の設置がスタート 東中浜店のようす	
1月8日	共同購入での募金案内がスタート (HPIにて)	
1月15日	日本生協連によるコープいしかわへの派遣支援スタート (全国生協から週あたり約30名の派遣)	
2月5日~9日	パルコフからも応援を派遣 (支所職員2名、CO・OP共済職員1名)	
2月7日~8日	JAいなば、コープいしかわなどお見舞い訪問・現地視察 (役員4名)	
2月16日~19日	コープ福祉機構による介護職員の派遣支援スタート パルコフからも福祉職員を派遣 (2名)	
2月16日~18日	大阪府生協連によるボランティアバスに参加 (役職員10名)	
2月23日~	パルコフ「復興支援ニュース第1号」を発行 (その後は隔週発行しホームページで掲載)	
3月15日~17日	大阪府生協連によるボランティアバスに参加 (役職員8名)	



### 配送支援 (2/5~/9)

能登地方北部の穴水町で宅配を再開するにあたって、配送同乗の支援に入りました。コープいしかわの職員と出発前に地図を確認するのは北枚方支所・小西さん (左端)。

### CO・OP共済お見舞い活動 (2/5~/9)

富山県氷見市・石川県七尾市でCO・OP共済を契約されている組合員さんのお宅へ訪問、被害状況の聞き取りや給付手続きの案内などを行いました。

「震災のお見舞いに訪問させていただきました」と訪ねると「わざわざ大阪からありがとうございます」と言っていた。中には異常災害見舞金のことを契約者の方がご存知なく、支払いの対象になることを伝えると「今すぐのお金が必要なのですごく助かります」と感謝される場面もありました。



### お見舞い訪問・現地視察 (2/7~/8)



JAいなばをはじめ、石川県連が立ち上げたコープ被災地支援センター、コープいしかわを訪問。お見舞金と目録をお渡し。「全国の支援のおかげで事業継続が出来ており、配送職員も全国の仲間に元気をもらっています」とお礼の言葉をいただきました。写真：永岡常務 (左) コープいしかわ 吉本専務 (右)



### 大阪府生協連ボランティアバス (2/16~/18)



大阪府生協連の呼びかけのもと、パルコフからは支所長・店長をはじめ10名の役職員が参加し、総勢30名で炊き出しを行いました。炊き出しは能登町の2カ所で行い、たこ焼き・きつねうどん・炊き込みご飯・豚汁・コーヒーを振る舞いました。

炊き出しの際「飲料水の配布はありますか」「その水をください」と聞かれるほど現地では水が不足していて本当に切実な状況ということが分かりました。どちらも行列ができるほどで、450~500食分を提供し喜んでいただけました。

## 「能登半島地震支援募金」にご協力ありがとうございます

募金総数：33,920名 40,696,300円（2024/3/25現在）

1月5日より取り組んでいる募金のうち、2月末までに集まっている約3,200万円を、第1次として送金しました。日本生協連を通じて各市町村の被災された方への義援金および被災地支援金としてお届けします。

◆共同購入（班配・個配）は  
**5月1回まで**  
募金カンパ欄【1416】にて



1と記入すると100円の募金となります(100円単位)  
※100と記入すれば1万円の募金になります

◆店舗・組合員会館の募金箱は**5月20日まで**



インターネット注文（オンラインズ）からは、「募金」ボタンから入力してください。

### 福祉職員の支援派遣（避難所での活動）（2/16～/19）

被災地では、高齢者の健康状態や介護度の悪化防止と災害関連死を減らすために専門性を有した福祉職員によるケアが求められています。石川県生協連からの要請を受け、パルコoopからも小規模多機能パル都島の職員2名を派遣しました。活動は金沢市のスポーツセンターに設けられた1.5次避難所で、主に食事提供や入浴介助・排泄介助・傾聴などを行いました。



#### 支援に参加された感想

義援金ではなく人的支援で力になればいいなという思いで応募しました。専門職間の連携がとても難しく混乱しているように感じ、施設ではないので、手すりやベッド、トイレなど環境が整っていない状態での介護支援はとても苦労しました。今回の経験で、やはり高齢者さん達の心に寄り添うことが一番大切だと思いました。



### 大阪府生協連ボランティアバス（3/15～/17）

今回は、能登町にある小間生（おもう）地区と柳田地区、鶴川地区に分かれて、炊き出しや被災された家屋の片付け作業を行いました。被災家屋の片付け作業では、班に分かれて2カ所のお宅で活動。高齢女性1人暮らしのお宅では、家具や畳を外へ持ち出し産廃場所へと運ぶ作業を行いました。タンスやベッド、神棚、照明器具、襖などいろいろあり、2階から降ろすのも一苦労。畳だけでもかなり重く男性2人がかりでも大変で、枚数も相当ありましたが、依頼主様に喜んでいただくことができました。



仮設住宅の掲示板には「大阪のたこ焼きお楽しみに」と貼られており、たくさんの方が楽しみに待ってくださっていました。

- ①小間生公民館…焼うどん 250食、炊き込みご飯 250食（とやま生協様と） 他
- ②柳田庁舎前…きつねうどん 300食、炊き込みご飯 400食 他
- ③鶴川仮設住宅…焼うどん100食、たこ焼き160食、ウインナー100食 他